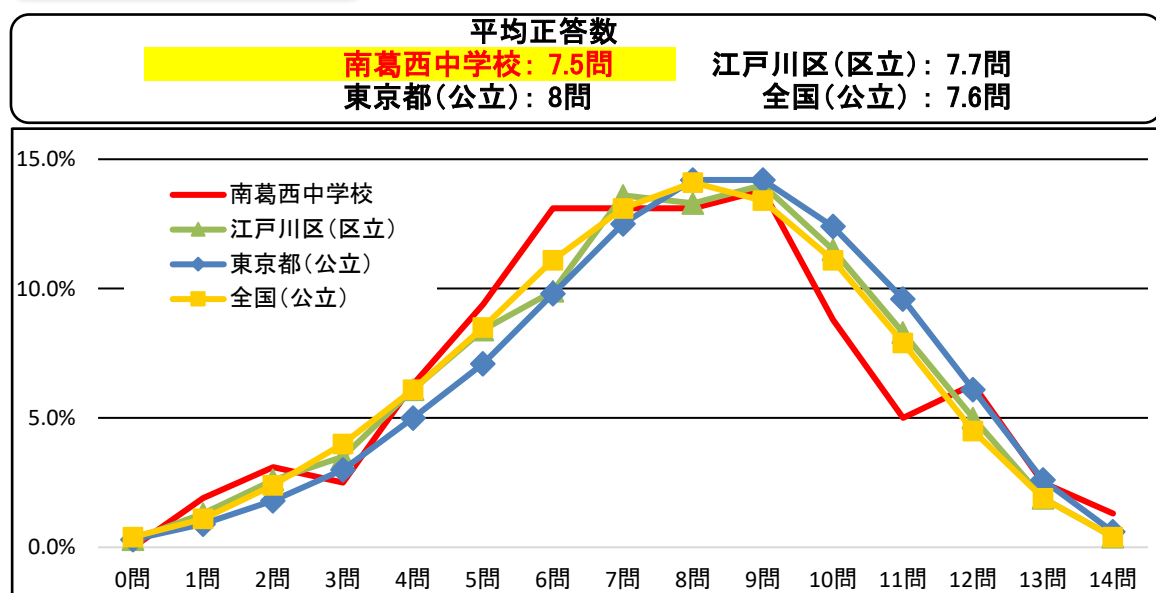


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】南葛西中学校

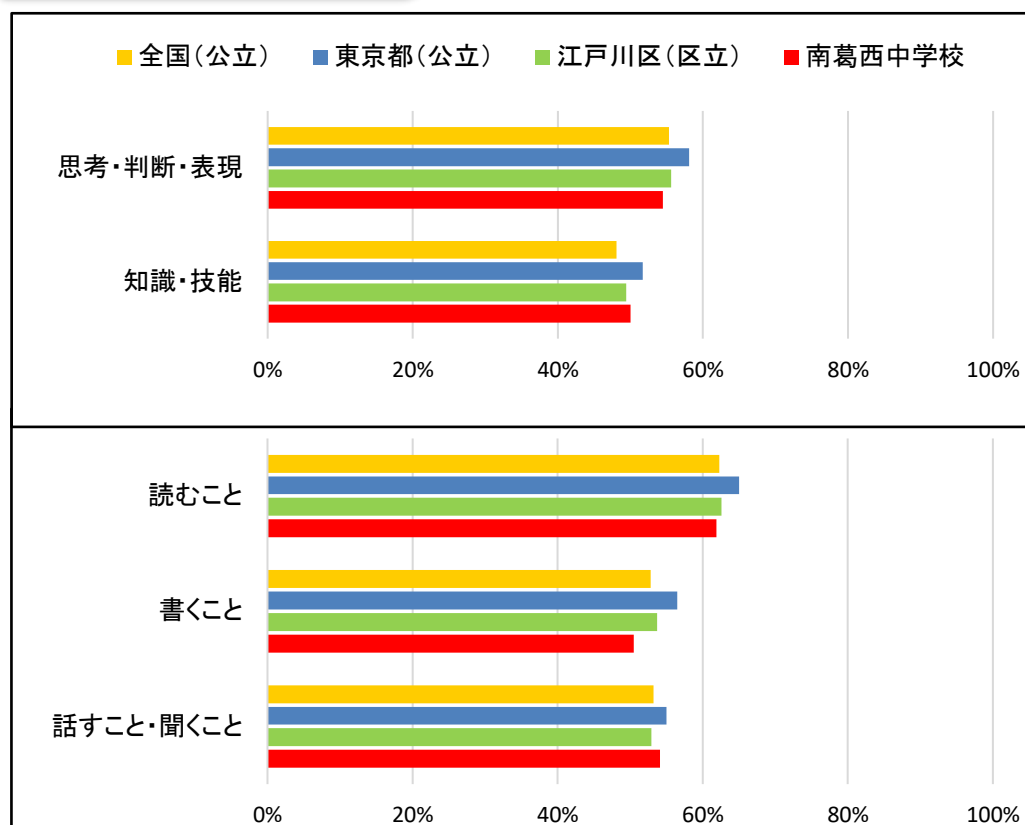
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

南葛西中学校	54%
江戸川区(区立)	55%
東京都(公立)	57%
全国(公立)	54.3%
都との差(ポイント)	-3.0

「領域別」の結果

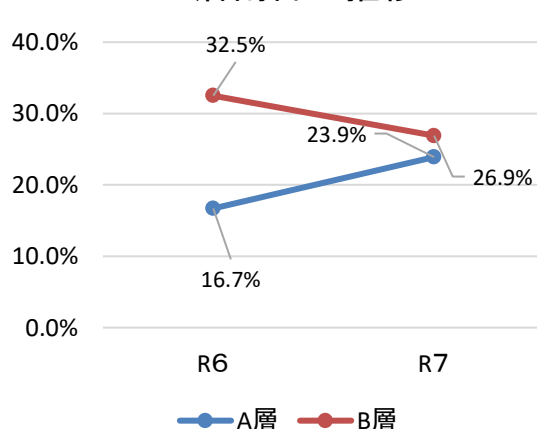


四分位における割合（都全体の四分位による）

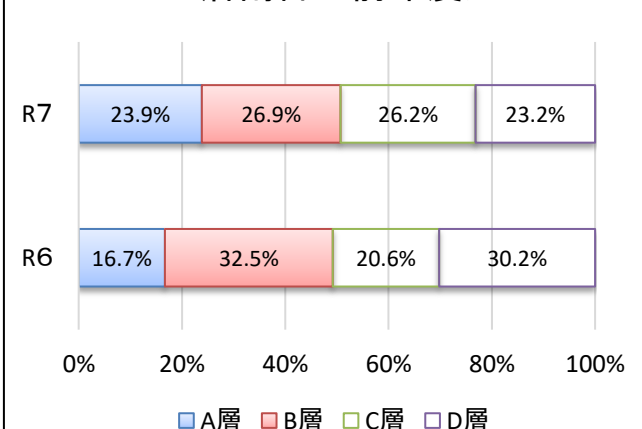
国 語	上位 ← 下位			
	A層 10～14問	B層 8～9問	C層 6～7問	D層 0～5問
南葛西中学校	23.9%	26.9%	26.2%	23.2%
江戸川区(区立)	27.1%	27.2%	23.5%	22.2%
東京都(公立)	31.2%	28.4%	22.3%	18.1%
全国(公立)	25.8%	27.5%	24.2%	22.5%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

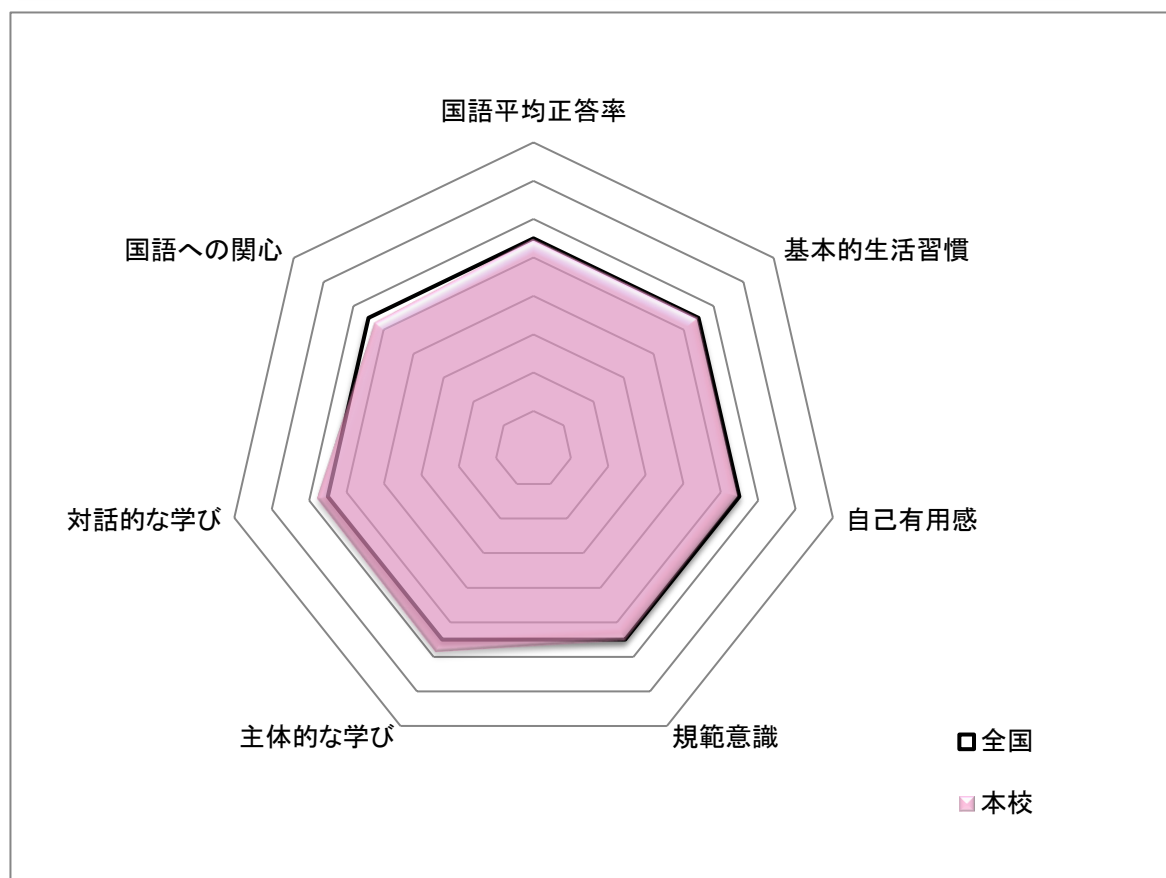
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

平均正答率では全国平均を下回った。国語への関心では全国平均を下回った。生徒質問紙の回答については、主体的な学びや対話的な学びについて値が比較的高い。それに対し基本的生活習慣の項目の値がやや低い。

《家庭・地域への働きかけ》

学校教育に対して理解を示し協力的な家庭が多い。三者面談や保護者会、学年だより、学校HPなどをとおして本校生徒の課題について周知し、改善を働き掛けるとともに、学校・家庭・地域が協力して生徒の学力の向上、学校生活の安定を図っていく。

《現状把握》

- AB層の割合と取組内容について
 - ・全国平均との比較 -0.3ポイント
 - <知識及び技能>が +1.9ポイントである。
 - <思考力判断力表現力等>が -0.8ポイントである。
 - ・都平均との比較 ポイント
 - <知識及び技能>が -1.7ポイントである。
 - <思考力判断力表現力等>が -3.6ポイントである。
- ・AB層の割合について
 - 全国平均との比較 -2.5ポイントである
 - 都平均との比較 -8.8ポイントである。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

研究授業の実施を通して、生徒の学びを深める授業づくりを全校で共有している。授業後には協議会を開き、授業者の意図や生徒の反応をもとに、指導法の改善点や成果を明確化している。また、授業を観合う会を定期的に実施し、互いの授業を参観しあうことで、多様な指導方法や学習活動の工夫を学びあっている。さらに、これらの取り組みを通して、教員間の実践的な学び合いが促進され、指導技術の向上と授業の質的改善につながっている。

・基礎学力の保障

漢字や語句テストなど、小テストを行い、基礎の定着を図っている。「書くこと」の作文については、型を提示し、繰り返し作文練習をすることで、文章の書き方を定着させている。「読むこと」については、個人での学習からグループ活動へ移行させることで主体的、対話的な学びへとつながるよう工夫している。

・学習習慣の確立

定期的に漢字テストを行っており、そのための学習や意味調べ、副教材の問題集などの課題を出すことで、家庭学習の習慣をつけられるようにしている。また、単元テストを行い、学習の機会をつくっている。

・AB層の育成

さまざまな生徒がいる中で、対話的な学習を積極的に取り入れることで、多様な考えに触れ、多角的な視点で物事を捉える力、想像力などの育成を目指している。また、グループ活動内等で、スモールティーチャー制度を活用し、自身の知識の定着を図るようにしている。